

ジェネリック医薬品使用促進 緊急対策期間の取組結果について

■取組期間

令和2年2月 ～ 令和2年9月

■取組内容

1. お薬代軽減可能額通知 送付対象者の拡大

・18歳以上⇒ 15歳以上 （令和2年2月通知分から）

約7割の市区町村において、15歳の年度末に乳幼児医療費助成が終了するため、ジェネリック医薬品への切替に繋がりがやすいと考え、実施する。

2. 医療機関・保険薬局への訪問強化

- ・医薬品の処方状況が記載された「見える化」ツールを提供する。
- ・岐阜県でよく使われているジェネリック医薬品のリストを提供する。
- ・ジェネリック医薬品の使用割合が保険料率に影響を与えることを周知するため、インセンティブ制度周知用チラシを配布する。

■取組結果

1. お薬代の軽減可能額通知 切替効果比較

令和元年度	送付日	対象年齢	診療対象月	比較年齢層	送付人数	切替人数	切替率	軽減効果額
第1回送付	2019/8/23	18歳以上	2019/2月・3月・4月	18歳～24歳	4,681人	722	15.4%	634,115円
第2回送付	2020/2/21	15歳以上	2019/8月・9月・10月	15歳～24歳	4,857人	905	18.6%	1,241,689円

2. 医療機関・保険薬局等への訪問強化

(1) 訪問時期

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
3	26	0	0	0	14	20	8	1	72

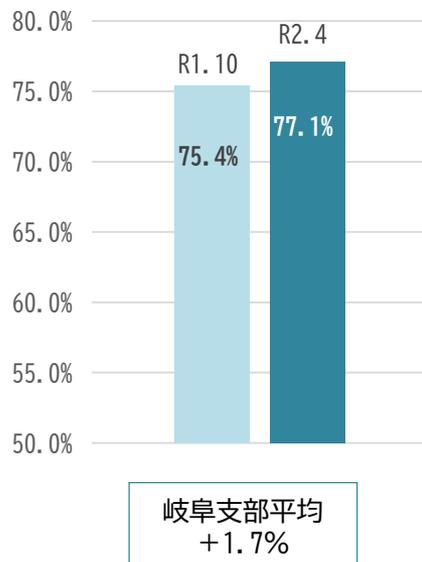
*本部指示により訪問自粛

(2) 訪問件数 72件

- ①医療機関 39件 (大規模 15件 中小規模 24件)
- ②薬局 33件
- ③その他 岐阜県医師会 岐阜県歯科医師会 岐阜県国民健康保険課

■1月・2月に訪問した医療機関等の変化 [速報]

ジェネリック医薬品使用割合
R1.10とR2.4の比較



変化のあった訪問先 (R1.10→R2.4)

	R1.10	R2.4	変化
A 医院	50.4%	58.9%	+8.5%
B 薬局	45.8%	56.3%	+10.5%
C 薬局	54.6%	59.0%	+4.4%
D 病院	75.9%	78.6%	+2.7%
E 薬局	49.7%	57.2%	+7.5%
F クリニック	41.1%	43.0%	+1.9%
G 薬局	71.8%	74.5%	+2.7%
H 薬局	59.9%	63.1%	+3.2%



■訪問時に聞かれた意見等

- ・システムの一般名処方に対応できない。
- ・先発薬メーカーの競争力低下が心配。
- ・先発品の薬価をもっと下げればよだけのこと。
- ・先発品の多い大病院からの患者は切替しにくい。
- ・ジェネリックは効果に疑問を感じる。
- ・「経営上の理由」で先発薬を使っている。
- ・強制になればジェネリックに切り替える。
- ・関心の薄い医師が多い。医学生のうち医療経済について学ぶべき。